

1 授業の実際

本単元では、子どもが働かせる考え方を、状況に応じて再構築することと設定した。なぜなら、本単元で扱う言語活動である道案内には、相手が行きたい場所や自分が連れていきたい場所、街のつくり、宝箱の位置など様々な状況があり、状況に応じて再構築するという考え方を自覚するために適していると考えたからである。

単元のはじめ、**You can see it on your right/ left.**の指示を導入する際、**Stop!**の指示と比べることで子どもたちは『相手の立場』や『相手目線』を考えることを大切にしていきたいと外国語科の見方・考え方の根底となるキーワードを使って語った。

本時では、自分で決めた宝箱への案内に用いる地図上の施設ごとに、二つの宝箱を近くに配置した。子どもたちは、このような状況に応じて、**on/in/under/by**などの、宝箱の位置を伝えるために重要となってくる情報に自然と強勢を置いて指示をしていく。しかし、この段階では、強勢を置いて指示をするよさに、子どもたちは気付いていなかった。そこで、教師から「**It's in the box.**」と位置を表す語をごく小さな声で発話した指示を提示



図1 本時で提示した地図の一部

し、子どもたちにどうであるか問うた。子どもたちは、「『相手の立場』で言ってない。」「『相手目線』でわかりやすい道案内をしないとイケないから、相手に聞こえなかったら意味がない。」と先ほどのキーワード挙げて考えていった。さらに、どのように発音しようか、と発話の工夫を子どもたちに問うた。この2つ目の問いに対し、次の3つの案が子どもたちから出てきた。

【案1】箱の中にあることを強調したい。 “It's **in** the box.”

【案2】もっと発音よく言う。 “It's **in** the box.”

【案3】 “It **in** the **box**.” (in を中くらい、box を大きく) → 児童：「何の中にあるかも大切」

子どもたちは、これらの案をもとに、発音を工夫しながら再度ペアで言語活動を行うことができた。このように、本実践の子どもたちの姿からは、『相手の立場』や『相手目線』というキーワードが、子どもたちの発話の工夫につながったことがわかる。『相手の立場』や『相手目線』というキーワードを明示しておくことが大変有効であった。

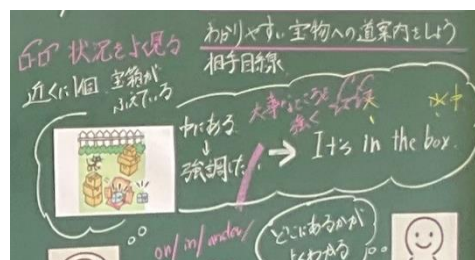


図2 本時の板書

2 今後に向けて

協議会では、週2回、45分×2という短い時間のなかで、日本語で発音の工夫を自覚することは本当に必要なのか、発音の工夫よりも、体験的にことばを習得することが大切なのではないか、といったご意見をいただいた。たしかに、小学校段階では、ことばの仕組みを理解するために、体験的に活動していくことが大切である。だからこそ、今後は、学習者が一人では気付にくい部分、特に、どのように伝わったのか、どのようなことばのきまりがあるのか、ということに関して、学習者同士がどのように学び合っていけばよいのか、研究を深めていきたいと思っている。

また、見方・考え方についても、それぞれの学習材における見方や考え方を子どもから引き出すために、その大きな根拠となる『相手の立場』や『相手意識』を各単元、外国語科の学習の系統の中で、どのように明示的に扱うのかも、さらに研究していきたい。